

# 令和7年度 浜松市立光が丘中学校 学校評価報告書

## 1 自己評価

### (1) アンケート結果

#### ①生徒による学校評価結果より

生徒同士や、生徒と教員間の人間関係に関して、また、学校活動における行事への取り組みに関しては、どの学年でも「あてはまる」「ややあてはまる」が80%後半から90%台を占めており、本校が安心して学校生活を送ることができ、授業や行事に意欲的に取り組むことができる場になっているということが伺える。

一方で、どの学年でも共通して自らの目標を見つけ、その目標に向けて積極的に取り組んだり、他者とのコミュニケーションを測ったりすることに、本校生徒は課題意識をもっていることがこの結果から見取ることができる。

・「学習には自ら進んで取り組むことができている。」

1年：83.7% 2年：72.7% 3年：80.7%

・「自分は近所の人達とも話をする事ができる。」

1年：76.3% 2年：79.5% 3年：63.2%

・「自分には、将来、やりたいことや挑戦したいことがある。」

1年：67.2% 2年：77.3% 3年：73.7%

・「悩みや困ったことがあるときは、家族に相談している。」

1年：76.4% 2年：90.9% 3年：84.3%

・「家では、時間をうまく使い、やるべきことを楽しむことの区別をつけ、有意義に時間を使っている。」

1年：70.9% 2年：77.3% 3年：73.7%

#### ②保護者による学校評価結果より

「本校が生徒にとって安全で、安心して通うことができる場所である」という項目については「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が100%となっている。実際、行事や参観会では多くの保護者が来校しており、本校の教育活動に協力的な保護者が多いことにも表れている。また三者面談などの生徒、保護者、教員が話をする場面においても、生徒に対する指導の方向性を教員、保護者間で自然に共有できるケースがほとんどであり、教員と生徒、そして保護者が良好な関係にあることがわかる。

一方で、家庭での時間の使い方を問う項目に関して、多くの保護者が、生徒自身が有意義に時間を使うことができていると問題意識をもっている。これは自己調整の力が定着していないと考えられ、生徒のアンケート結果に表れていた将来の展望を問う項目のパーセンテージの低さと関係していると思われる。

### ③「学校いじめ防止基本方針」に基づく取り組み状況

本校では、アンケートや教育相談を通して生徒の声を聞き取り、校内いじめ対策委員会を核として、SC、SSW など外部機関と連携しながらいじめへの対処に組織的に取り組んでいる。

本校職員に対して年度末にとったいじめへの取り組みに関するアンケートでは、4（できている）～1（できていない）の評価で、「未然防止」や「早期発見」、「対応」などほとんどの項目に関して平均して3.6という評価であった。しかしその中で、「事実を聞き取り、その事実のみを記録に残す」という項目では、3.3という評価が出ており、ほかの数値と比べると、若干低く出ている。

## (2) 分析考察

### ①生徒による学校評価結果をうけて

生徒自身が目標を考え、一歩踏み出し、成功体験を重ねられる機会を増やしていきたい。そのためには、まずは授業を通してその姿勢を育むことが基本となる。それは学校生活の中で生徒が最も多くの時間をかけられる場であり、先述したプロセスを追いやすいからである。その上で行事や特別活動で身に着けた力を発揮できるように、機会の充実を図っていく。行事や特別活動では、生徒が自ら目標を考え、自分たち自身で達成していく場面を多くすることで、自ら判断し、人と関わり、行動していくことの楽しさを実感させることができる。当然、その過程で、うまくいかないことや失敗に直面することもあるが、その危機をどう乗り越えるかについても、生徒同士の話し合いを通して解決をはかることで、生徒は自身で成長する実感をもつことができる。その実感を自分たちがもてた時に、生徒は自分達自身の中に主体性の向上を見ることができるとはならないだろうか。また同時にこの過程で、仲間と協力して一つのことを成し遂げることの価値を実感することで、他者に対する意識も同時に育んでいきたい。

### ②保護者による学校評価結果をうけて

保護者との連絡を密にとり、信頼関係を構築することで、ともに学校を作っていくという意識を確かなものにしていきたい。欠席時の電話連絡や家庭訪問、学校・学年・学級だよりなど、基本的なことを積み重ねながら、一人一人の生徒の様子を常日頃から把握し、その生徒のもつ魅力や課題をいつでも保護者に伝えられるようにしておきたい。保護者は当然「我が子」を一番として考えるが、同時に私たち教員も一人一人の生徒の未来に対して真剣に向き合っているという意識が保護者に伝われば、保護者の安心感と信頼に結び付き、ひいては学校に対する信頼感の構築につながっていく。

保護者と学校の間で信頼関係が構築できれば、学習支援についても学校の教育目標や様々な活動における意図が伝わりやすくなるため、学校と保護者の間で同じ目標に向かいながらも、異なる視点、異なる役割で生徒の学びに寄り添うことができる。

### ③「学校いじめ防止基本方針」に基づく取り組み状に対して

記録に残すということに関しては、生徒の未来を守るという点でも、事実関係をしっかり把握するという点でも、最も重要なことのひとつなので、次年度には、再度その重要性を伝え、教員間で常に声を掛け合う意識を高めていきたい。

#### ④本校グラウンドデザインの重点項目とアンケート結果の関わり

「学校評価の分析（表1）」からは本校の重点項目に対しては、生徒、職員、保護者共におおむね達成していると捉えていることがわかる。今年度は下方矢印で示された項目はほぼ無く、「あいさつ①」に関わるパーセンテージは全学年で上昇傾向がみられるため、本校におけるあいさつに関する取り組みが生徒の考えに影響を与えたと言える。また、「主体的な学び」の結果についても、ほとんどすべての項目でパーセンテージの上昇がみられるため、1回目から2回目の間で、できるようになったと感じている。実際に授業の様子を見ていても、明らかに生徒の取り組みは積極性を増しており、中学校の授業を通して、学ぶことの価値を考え、自らの目標に対して取り組んでいく姿勢を身につけつつあると判断できる。

表1 学校評価の分析

		学校評価（経営の重点）の分析										
		1学期（1回目）				2学期（2回目）						
		対象	◎	○	△	×	◎	○	△	×		
徳	1 あいさつ ①	光が丘中学校では、あいさつを大切にし自らあいさつしようとしている	1年生	57	40	0	3	55	40	3	2	→
			2年生	55	45	0	0	71	29	0	0	↑
			3年生	50	50	0	0	68	32	0	0	↑
	2 あいさつ ②	家族や地域の方に対して進んであいさつができる  (保護者：子供は家族や地域の方にあいさつがよくできている) (職員：社会のルールや公共のマナー（挨拶・言葉遣い等）など機会あるごとに適切に指導することができた)	1年生	60	34	3	3	55	40	0	5	→
			2年生	73	17	10	0	71	25	4	0	→
			3年生	56	39	5	0	72	26	2	0	↑
知	2 主体的な 学び①	光が丘中の授業では目標や課題が明確に伝えられ、何を頑張ればよいか分かりやすい  (保護者：光が丘中の授業では理解を深めたり、意欲を高める工夫がされている) (職員：主体的に学習に取り組むための授業構想や手立てを意識したか)	1年生	43	45	8	4	56	40	2	2	↑
			2年生	65	35	0	0	82	18	0	0	↑
			3年生	32	67	1	0	54	42	4	0	↑
	3 主体的な 学び②	光が丘中の授業では、仲間と協力して課題解決に取り組んでいる  (職員：生徒の興味関心を高め、主体的に学習に取り組むよう指導方法や指導形態を工夫したか)	1年生	35	59	6	0	25	69	6	0	→
			2年生	51	45	3	3	58	38	2	2	→
			3年生	78	22	0	0	84	16	0	0	↑
4 主体的な 学び③	学習には自ら進んで取り組むことができている  (職員：生徒の興味関心を高め、主体的に学習に取り組むよう指導方法や指導形態を工夫したか)	1年生	59	41	0	0	81	18	1	0	↑	
		2年生	24	71	5	0	38	56	6	0	↑	
		3年生	28	45	21	6	38	36	9	7	↑	
体	3 行事への 取り組み	学級・学年の行事や生徒会の活動に、協力して全力で取り組もうとしている  (保護者：光が丘中は行事、生徒会活動、部活動などに子供が生き生きと取り組み、活躍の場を設けている) (職員：行事への取り組みを通して、学級への耕しと学級づくりが進んだか)	1年生	28	50	22	0	34	39	23	4	↑
			2年生	28	50	22	0	34	39	23	4	↑
			3年生	17	59	22	2	35	46	16	3	↑
	4 行事への 取り組み	学級・学年の行事や生徒会の活動に、協力して全力で取り組もうとしている  (保護者：光が丘中は行事、生徒会活動、部活動などに子供が生き生きと取り組み、活躍の場を設けている) (職員：行事への取り組みを通して、学級への耕しと学級づくりが進んだか)	1年生	45	44	9	2	64	29	5	2	↑
			2年生	78	22	0	0	91	6	3	0	↑
			3年生	57	41	2	0	83	17	0	0	↑
5 行事への 取り組み	学級・学年の行事や生徒会の活動に、協力して全力で取り組もうとしている  (保護者：光が丘中は行事、生徒会活動、部活動などに子供が生き生きと取り組み、活躍の場を設けている) (職員：行事への取り組みを通して、学級への耕しと学級づくりが進んだか)	保護者	31	62	6	1	44	49	6	1	↑	
職員		41	47	12	0	63	37	0	0	↑		

## 2 学校関係者評価

1月29日（木）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・学校の教育目標に向けてどう動くか、生徒たちをどうやって育てていくのかを考えていくのが大切である。アンケート結果に合わせて、あとのつじつまあわせはよくないが、今回の結果は筋が通っていてすばらしかった。
- ・全力でうちこめるものがあるかという質問に対して、ほぼ8割の生徒が、あてはまる/ややあてはまると回答しているのが好印象である。
- ・目標に向かって指導していくのが基本だが、型にはめすぎるのも疑問に思う。目標と違ったことが起

きた時の対応がなされているかが重要ではないか。アンケートの結果は、全体的にいい流れだと思う。

- ・ 昨年に引き続き、自ら進んで物事に取り組む意識が薄いという問題が、今年も出てくるのではないかな。
- ・ 光が丘中の生徒たちは、優しく、素直で、挨拶もよくできている。いじめに関しては、大人に何ができるのか、難しいところがある。
- ・ 集団行動になじめない生徒に対しては、まなびの教室等が支援する仕組みになっていくと思う。不登校は子どもだけの問題ではなく、親が送り出せないケースもある。
- ・ いじめや不登校の問題は、なかなか対応が難しいが、様々な支援を活用して、つながりを意識した取り組みが重要だと思う。
- ・ 光が丘中の生徒たちは、優しく、素直で、挨拶もよくできている。いじめに関しては、大人に何ができるのか、難しいところがある。
- ・ 集団になじめない生徒に対しては、まなびの教室等が支援する仕組みになっていくと思う。不登校は子どもだけの問題ではなく、親が送り出せないケースもある。
- ・ 大人数の中で、社会性を身につけることには価値があるが、そこに身を置くのが難しい生徒も多くなっている。多様な生徒に対して多様な居場所（まなびの教室など）を提供し、取り組んでいく。

### 3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・ 自ら進んで物事に取り組む意識の薄さに関しては、令和 7 年度に続き、今年度も校内研修で中心事項として扱い、対応していく。
- ・ 多様な生徒への対応に関しては、外部の関係各所の力を借りて、それぞれの生徒にとってどのような対応が一番必要であり、かつ最適なかを考え、柔軟な対応をとることができるようにしていきたい。
- ・ いじめ防止に向けて、今後も早期発見に力を入れ、教育相談やアンケートで生徒の声をいち早くキャッチできるようにしていく。